

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

先週の国内株式市場は、前週末比で上昇しました。

週初は、米大統領がFRB（米国連邦準備制度理事会）議長へ利下げを要求し、中央銀行の独立性が損なわれるとの警戒感が強まったことなどから、米国株式市場は下落し、その影響から国内株式も売られました。その後、FRB議長解任に対する懸念が和らいだことによる円安ドル高基調、日米の関税交渉の進展、米中貿易摩擦の懸念後退がみられたことで、国内株式市場は上昇しました。

投資環境見通し（2025年4月）

国内株式相場は下値を切り上げる動き

企業業績については、所得環境の改善から個人消費が回復するとみられる一方、国内長期金利の上昇や米国関税政策の不確実性が下押し要因とみられます。国内株式相場は、海外情勢を巡る先行き不透明感が広がる中、国内長期金利の上昇もあり、当面は変動率の高い展開になるとみられます。ただし、自社株買いや新NISAなどを通じた個人投資家の買いに支えられる展開の中、次第に下値を切り上げる動きになるとみています。

	4月25日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	2,628.03	2.69%	▲6.06%	0.37%	▲1.33%
日経平均株価	35,705.74	2.81%	▲5.49%	▲5.82%	▲5.11%

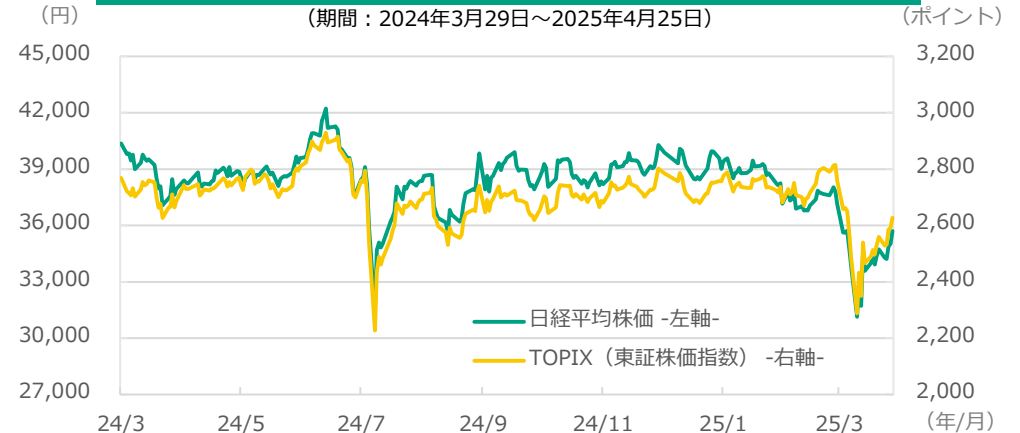
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202504_outlook.pdf

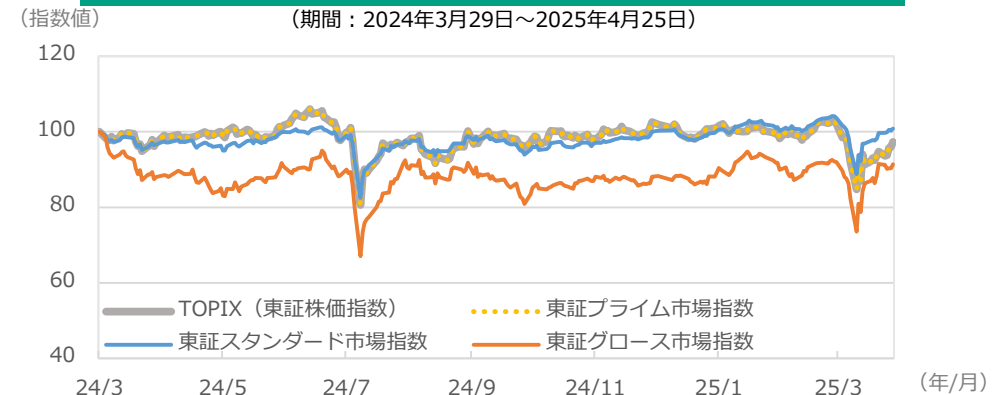
日経平均株価、TOPIXの推移

（期間：2024年3月29日～2025年4月25日）



東証市場別指数の推移

（期間：2024年3月29日～2025年4月25日）



※2024年3月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

米国株式市場は、前週末比で上昇しました。

週初は、米大統領がFRB（米国連邦準備制度理事会）議長へ利下げを要求し、中央銀行の独立性が損なわれるとの警戒感が強まったことなどから、米国株式市場は下落しました。その後FRB議長解任に対する懸念が和らいだことや、中国を中心とするアジア諸国との関税交渉に進展がみられたことで米国株式市場は上昇しました。

欧州株式市場は、前週末比で上昇しました。

投資環境見通し（2025年4月）

外国株式相場は、米国、欧州ともに上値は重い

企業業績については、米国関税政策の不確実性を背景に企業景況感は緩やかに弱含むとみられます。米国株式相場は、関税政策の不確実性から景気や企業業績の先行きが懸念され、上値の重い展開になるとみています。なお、関税については今後は各国間の個別協議に入るとみられ、その内容次第で変動率が高まる場面もあるとみています。欧州株式相場は、拡張の方向に転換した財政政策が支援材料とみられますが、米国関税政策の不確実性が下押し圧力となり、上値の重い展開になるとみています。

	4月25日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
S&P500種株価指数	5,525.21	4.59%	▲4.35%	▲4.87%	9.44%
NYダウ	40,113.50	2.48%	▲5.81%	▲4.75%	5.32%

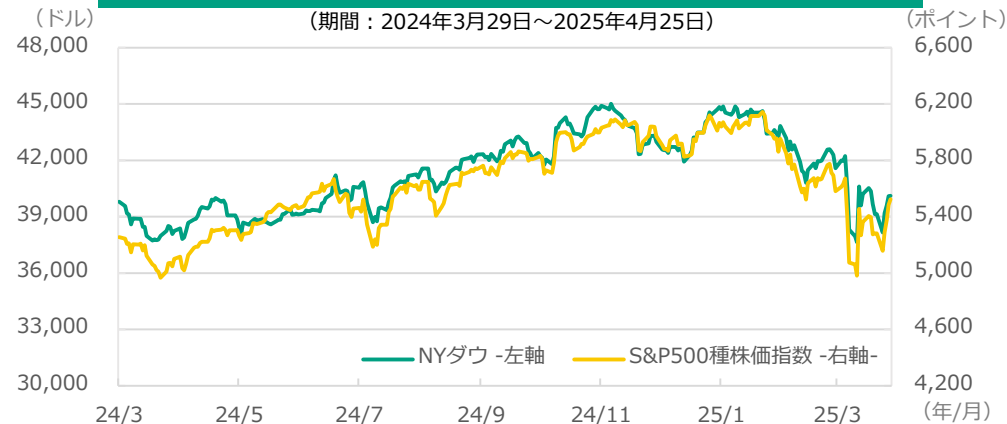
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202504_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

米国株価指数の推移



主要国株価指数の推移



※2024年3月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

先週の国内債券市場は、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。
トランプ米大統領によるFRB（米国連邦準備制度理事会）パウエル議長に対する批判的な発言を受け、米国長期金利が上昇した流れを引き継ぎ国内長期金利も上昇しました。その後も、国内株式市場が上昇したことや25日発表の4月の東京都区部CPI（消費者物価指数）が市場予想を上回ったことなどから、国内金利は上昇しました。
クレジット市場は、流動性も回復傾向にあり、やや改善しました。

投資環境見通し（2025年4月）

国内長期金利はレンジ内で推移

日銀総裁は政策金利の据え置きを決定し、米国関税政策の動向と影響をはじめ、世界景気や国内物価の動向を慎重に見極める姿勢を示しました。「低水準の実質金利」の下で日銀は今後も賃金動向や物価情勢を注視しつつ利上げ姿勢を強めていますが、米国関税政策を巡る先行き不透明感に加えて国内景気が鈍化するとの懸念もあります。足元でみられた国内長期金利の上昇についてはドイツ長期金利の影響もあったとみられ、さらなる上昇は限定的で次第にレンジ内での動きになるとみています。

	4月25日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（日本、%） （変動幅）	1.34	0.04	▲0.23	0.39	0.45
NOMURA-BPI総合 （騰落率）	350.71	▲0.08%	1.07%	▲2.70%	▲3.07%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202504_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

日本国債利回りの推移

（期間：2024年3月29日～2025年4月25日）



NOMURA-BPI総合指数の推移

（期間：2024年3月29日～2025年4月25日）



※2024年3月29日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。週初は、米大統領がFRB（米国連邦準備制度理事会）議長へ利下げを要求したことから、長期債は売られましたが、22日に米大統領のFRB議長解任を否定する発言が出るとFRBの独立性に対する懸念が後退し、金利低下に転じました。その後も、FOMC（米国連邦公開市場委員会）の6月利下げの可能性や、米中貿易摩擦への警戒感が弱まったことなどから債券は買われました。欧州国債市場は、英国金利が低下した一方、ドイツ金利はほぼ横ばいでした。

投資環境見通し（2025年4月）

長期金利は、米国では緩やかにレンジを切り下げ、欧州（ドイツ）では次第に低下基調に転じる
米国：関税政策の不確実性が、物価動向や消費者心理に加えて金融政策に対して影響を与える中、長期金利は景気に対する懸念が低下要因とみられるものの、引き続きドイツ長期金利上昇の影響を受けやすく、緩やかにレンジを切り下げる動きになるとみています。
欧州：ドイツ長期金利は同国政府が財政規律の緩和を決断したことから、高止まる可能性はあります。ただし、米国関税政策の域内景気に対する影響や経済関係の強い中国景気の減速が懸念されることに加え、ECB（欧州中央銀行）は利下げを続けるとみられることから、次第に低下基調に転じるとみています。

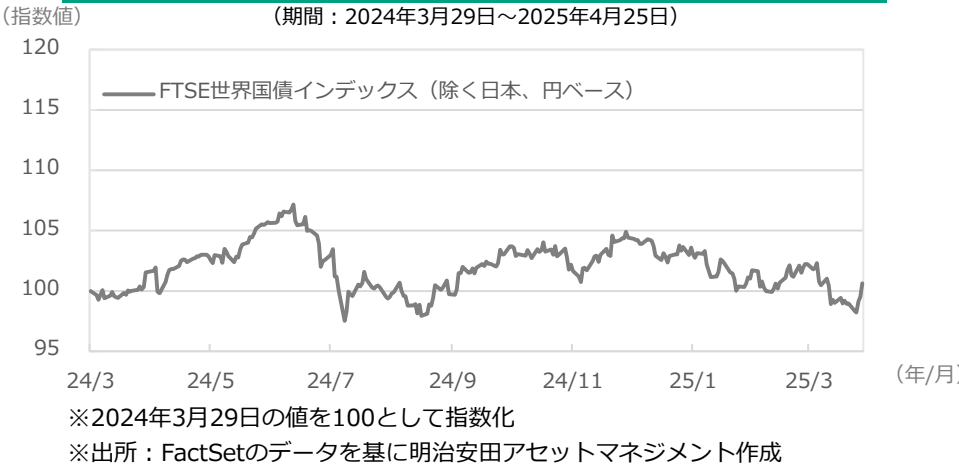
	4月25日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	4.26	▲0.07	▲0.05	0.02	▲0.44
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	591.70	1.71%	▲0.85%	▲2.33%	0.32%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。
https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202504_outlook.pdf

主要国国債利回りの推移



FTSE世界国債インデックスの推移



●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

先週の国内リート市場は、前週末比で下落しました。

週半ば、前週より国内リート市場が上昇していたことから利益確定の売りが優勢でした。その後も国内株式市場が堅調に推移する中、国内長期金利の上昇を嫌気し国内リートは売られました。

セクター別では、オフィスセクターや住宅セクター、商業・物流等セクターが総じて下落しました。

投資環境見通し（2025年4月）

国内リート市場は、底堅く推移すると予想

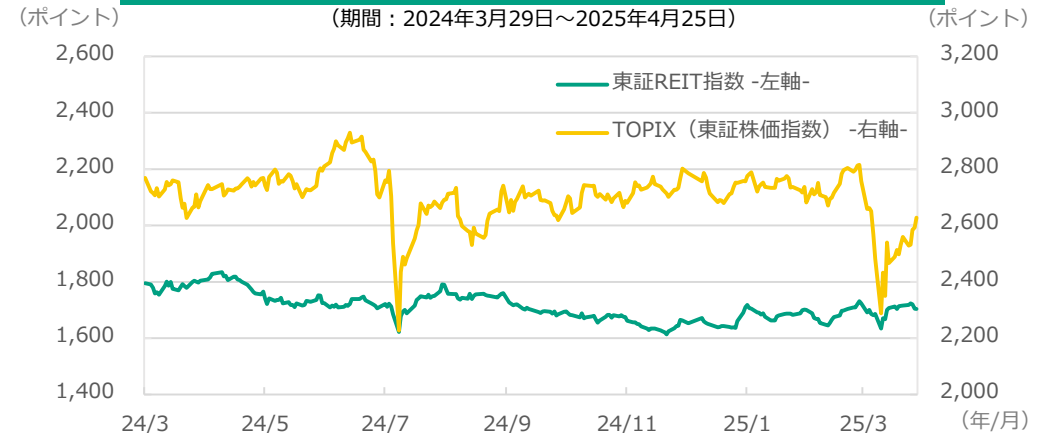
米国の関税政策や景気減速懸念を背景に、株式市場が大幅下落となるなか、リスク回避の動きから国内リート市場も軟調に推移しています。一方、投資主価値を高めるべく、各リーートのキャピタルアロケーション（資本配分）や成長戦略が改善してきていることに加え、直近の長期金利の低下はリート市場にプラスに作用するとみています。変動性が高まっている株式市場から、出遅れ感の強い国内リート市場への資金流入も期待されることから、底堅く推移すると予想します。

	4月25日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,703.17	▲0.72%	▲0.34%	1.10%	▲5.26%
＜ご参考＞ TOPIX（東証株価指数）	2,628.03	2.69%	▲6.06%	0.37%	▲1.33%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

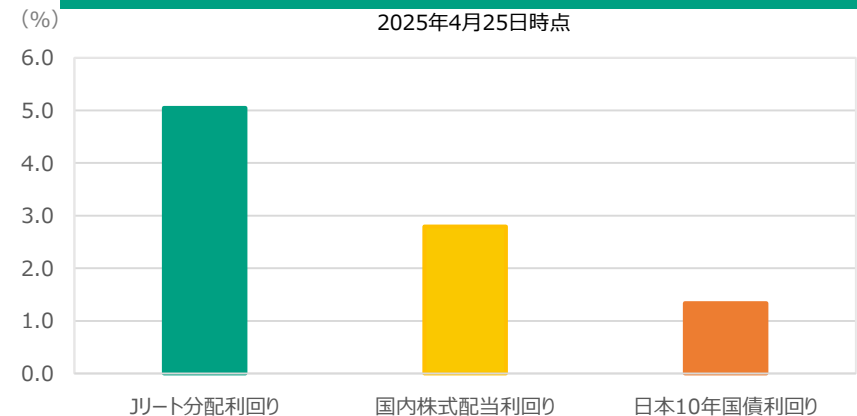
東証REIT指数、TOPIXの推移

（期間：2024年3月29日～2025年4月25日）



国内各種資産利回り

2025年4月25日時点



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

マーケットの動き（2025年4月21日～4月25日）

先週の為替市場は、前週末比で米ドルは対円で上昇（円安）しました。
週初は、前週にFRB（米国連邦準備制度理事会）パウエル議長解任の可能性に関する報道が出たことで、米ドル売りが進みました。その後、トランプ米大統領より解任報道が否定されたことや米中貿易摩擦への警戒感が弱まったことなどから円売り・米ドル買いが優勢となりました。
ユーロは前週末比、対円・対米ドルで上昇しました。

投資環境見通し（2025年4月）

円に対して米ドル、ユーロともに弱含む

米ドル：米国では関税政策の不確実性が景況感に影を落とす中、日銀による追加利上げ観測を背景に、ドルは円に対して弱含むとみています。

ユーロ：ドイツ政府による財政規律の緩和やECB（欧州中央銀行）による利下げ姿勢と域内金利を巡り上下の材料が交錯する中、日銀による追加利上げ観測を背景に、ユーロは円に対して弱含むとみています。

	4月25日	変動幅（円）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
米ドル/円	143.98	1.76	▲5.80	▲8.07	▲11.59
ユーロ/円	163.68	2.25	1.92	▲1.01	▲2.98

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

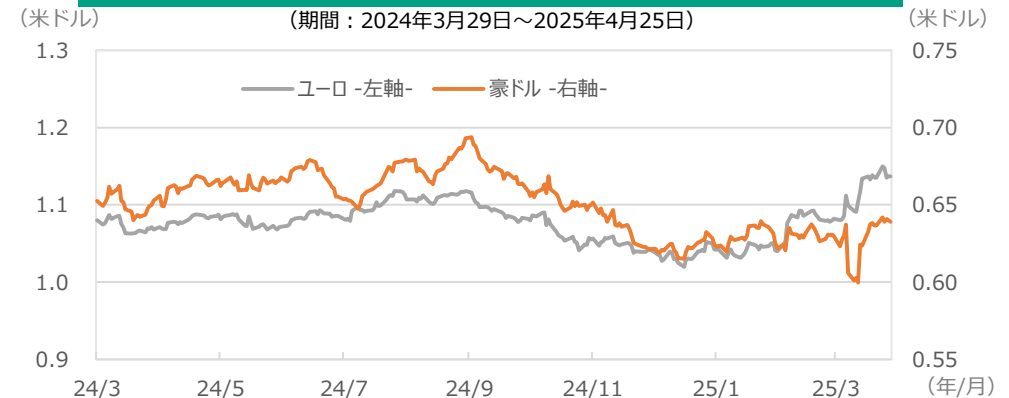
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202504_outlook.pdf

為替レートの推移（対日本円）



為替レートの推移（対米ドル）



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

使用インデックスについて

●T O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数の指数値及びT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に係る標章又は商標は、株式会社J P X総研又は株式会社J P X総研の関連会社（以下「J P X」といいます。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に関するすべての権利・ノウハウ及びT O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数に係る標章又は商標に関するすべての権利はJ P Xが有します。J P Xは、T O P I X（東証株価指数）、東証プライム市場指数、東証スタンダード市場指数、東証グロース市場指数、東証R E I T指数の指数値の算出又は公表の誤謬、遅延又は中断に対し、責任を負いません。

●日経平均株価に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。なお、日本経済新聞社は対象インデックスを用いて行われる事業活動・サービスに関し保証するものではありません。

●S&P500®は、S&P Dow Jones Indices LLCまたはその関連会社（「SPDJI」）の商品であり、これの使用ライセンスが当社に付与されています。S&P®およびS&P500®は、S&P Global, Inc. またはその関連会社（「S&P」）の登録商標で、Dow Jones®はDow Jones Trademark Holdings LLC（「Dow Jones」）の登録商標であり、これらの商標の使用ライセンスはSPDJIに付与されており、当社により一定の目的でサブライセンスされています。当ファンドは、SPDJI、Dow Jones、S&P、それらの各関連会社によって後援、推奨、販売、または販売促進されているものではなく、これらのいずれの関係者も、かかる商品への投資の妥当性に関するいかなる表明も行わず、当インデックスのいかなる過誤、遺漏、または中断に対しても一切の責任を負いません。

●NOMURA-BPI総合はわが国の公社債市場全体の動きを捉えたものとして、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社により公表されている指数で、機関投資家等に広く利用されており、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社の知的財産です。野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は当社の個々のファンドの運用成果等に関し一切責任はありません。

●FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLC は、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLC に帰属します。

●その他当資料にて使用したDAX指数、FTSE100、NYダウ指数の知的財産権、その他一切の権利は、それぞれ、ドイツ取引所、FTSE社、S&P Dow Jones Indices LLCに帰属します。

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。